

公表

令和7年度 事業所における自己評価結果

事業所名 フレンズジム南山田店

公表日 2025年11月28日

		チェック項目	はい	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	100%	0%	放課後等デイサービスの際には、人数とスペースによっては運動遊びの種類や遊び方の工夫が必要。
	②	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか	89%	11%	概ね適切な配置となっている。
	③	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか	89%	11%	各所に経年劣化による修繕箇所が出てきている。適宜、改善個所の見直しを行い安全面に配慮した修繕を行っている。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	89%	11%	
	⑤	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか	100%	0%	必要に応じて個別対応の活動部屋として使用したり休憩場所として利用できる環境整備をしているが、面談室として使用する THERE THERE があり工夫が必要。
業務改進	⑥	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	100%	0%	打ち合わせ時間が短時間であり、ゆっくりと全職員の意見を出し合い熟考する時間を持ちにくい。日頃より意識して職員間のコミュニケーションを取っていきたい。
	⑦	保護者等向け評価表を活用する等により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか	100%	0%	HPにて公表している。 (本結果は12月中公表)
	⑧	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか	100%	0%	日々の聞き取り等を受け、随時情報共有し改善できるよう図る。
	⑨	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	56%	44%	現在のところ、外部評価は行っていない。
	⑩	職員の資質の向上を行うために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか	89%	11%	業務の合間で受講できるよう調整している。オンライン研修の職場内共有を図っている。学びの機会を増やし、継続的な研修機会の創出へ努力が必要。
支援体制	⑪	適切に支援プログラムが作成、公表されているか	100%	0%	活動内容は、HPや通信で公表するよう努めている。
	⑫	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか	100%	0%	ケース会議等で子どものニーズを抽出するよう努力し、少なくとも1年に一度の保護者との面談を行い、課題を話し合い作成している。
	⑬	個別支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか	100%	0%	限られた時間内ではあるものの、各職員への聞き取りやケース会議の開催を児童発達支援管理責任者の声かけにより実施されており、決定した計画の内容も周知している。
	⑭	個別支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか	100%	0%	

適切な支援の提供	(15) 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか	100%	0%	契約前の体験児の行動記録や保護者からの聞き取り、アセスメント用紙への記入を実施している。
	(16) 個別支援計画には、ガイドラインの「提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	100%	0%	個々のニーズに応じて各項目の目標を設定している。その上で、児童発達支援管理者を中心に日々の活動プログラムへの反映や個別の支援内容へ落とし込むようにしている。
	(17) 活動プログラムの立案をチームで行っているか	100%	0%	常勤職員が中心となり立案したものを、共有し適宜意見を出し合いながら提供している。週ごとにメインの活動を変えている。非常勤職員にも、より積極的に立案の機会が与えられるよう努力する。
	(18) 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	100%	0%	活動自体は、集団療育であるが、個々の課題や介助度を把握し個別の対応を行っている。
	(19) 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて個別支援計画を作成し、支援が行われているか	100%	0%	活動自体は、集団療育であるが、個々の課題や介助度を把握し個別の対応を行っている。
	(20) 支援開始前に職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか	78%	22%	当日の活動内容や前回の振り返り、留意点や送迎計画等の確認を行っているが、全員で集まれる時間がない日もあり、情報共有、連絡事項の共有に工夫が必要である。
	(21) 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	89%	11%	個別記録を職員間で確認しながら記入するよう努めている。また、ヒヤリハットがないかなど、活動全体の振り返りを行っている。
	(22) 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	100%	0%	職員それぞれが意識しながら記録の記入に努めている。記入方法について、児童発達支援管理責任者により助言や指導を行っている。
	(23) 定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか	100%	0%	概ね3カ月から6カ月毎に個別記録を振り返り、支援内容を見直している。
	(24) 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか	100%	0%	複数の活動を利用者の実態に応じて取り入れて取り組んでいる。
	(25) 子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか	100%	0%	各活動場面において、子ども自身がやりたいことや欲しいものを選択し要求するために、場面設定や視覚支援ツールも用いた支援を実施している。
	(26) 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議に子どもの状況に精通した適任者が参画しているか（各機関とのケース会議なども含む）	100%	0%	主に児童発達支援管理責任者が参加している。
	(27) 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか	100%	0%	基本的には保護者を通じて行っている。必要に応じて直接学校へ連絡を取り、調整を行っている。

関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	(28)併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	100%	0%	必要に応じて連携をとっている。
	(29)就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	100%	0%	必要に応じて連携をとっている。
	(30)児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、必要に応じて助言や研修を受けているか（ケースワーカーや訓練士との情報共有なども含む）	100%	0%	必要に応じて連携をとっている。
	(31)放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか（戸外活動中の交流等）	78%	22%	戸外活動の際に地域の公園にて、場所や遊具の共有の機会があるが、限定的である。
	(32)日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	100%	0%	様子に変化や気になることなどを、支援終了後、電話連絡または連絡帳や送迎時に保護者の方に伝えるようにしている。
	(33)家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか	89%	11%	保護者向け勉強会や交流の機会が少ないので、次年度へ向けて検討していく。
	(34)(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	89%	11%	主体的に参加し、他機関、他事業所との連携に役立てている。今後もさらにスタッフ間での情報共有へ力を入れていく。
	(35)運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	100%	0%	契約時に伝え、変更があった場合にはその都度文書にて通知している。
	(36)個別支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか	100%	0%	個別支援計画見直しの際には、アンケートへの記入とモニタリング面談を実施し、保護者と児童それぞれのニーズの抽出を行っている。その上で、目標を見直して新たな計画を作成し、保護者へ説明の後、同意を得てから支援を実施している。
	(37)個別支援計画を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から計画の同意を得ているか	100%	0%	
保護者 へ の 説 明 責	(38)家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか	100%	0%	日々の送迎時や連絡帳、面談時等にて児童の共通理解を深めながら、ともに考えたり提案するようしている。
	(39)父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか	78%	22%	保護者懇談会を年1～2回行うこと目標としている。
	(40)こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	100%	0%	契約時に苦情窓口に関する説明を行っている。

任 等	(41) 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか	100%	0%	月1回通信を発行し、HPでの公表と保護者への配布を実施している。
	(42) 個人情報に十分留意しているか	100%	0%	書類の保管や守秘義務の順守に努めている。保護者からの評価100%を目指していく。
	(43) 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	100%	0%	定期的な面談や連絡帳などで行っている。視覚的な手がかりを使用。
	(44) 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	22%	78%	今現在の予定はないが、どういった形で開放していけるか検討をしていく。
非 常 時 等 の 対 応	(45) 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	100%	0%	事業所内にマニュアルを掲示するなどしているが、今後も定期的な啓発に努める。
	(46) 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	100%	0%	定期的な避難訓練を実施している。
	(47) 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	89%	11%	契約時のアセスメント用紙への記入や随時聞き取りを実施している。
	(48) 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応（保護者からの情報提供も含む）がされているか	89%	11%	保護者より確認し、職員が見える位置に表で共有しあやつ提供時には職員間で確認後、提供している。必要な場合に指示書の提出をお願いしている。
	(49) 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか	89%	11%	「年間安全計画」を作成し、保護者へ周知して上で、計画に沿って安全管理を実施している。
	(50) 子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか	100%	0%	
	51 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	100%	0%	職員が手に取りやすい位置にファイルを置き、各自で確認できるようにしている。
	52 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	100%	0%	年1回全職員向けに実施している
	53 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載していくことは、職員間で周知されているか	89%	11%	現在のところ身体拘束を行うケースはないが、職員間の共通理解や学ぶ機会を設けている